

ビンナガ 南太平洋

Albacore, *Thunnus alalunga*



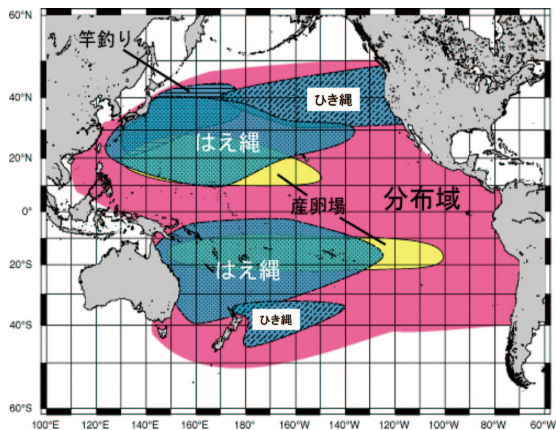
管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
太平洋共同体事務局 (SPC)

最近一年間の動き

2012 年の南太平洋におけるビンナガの漁獲量は 8.9 万トンで、2011 年から 5% 増加、2007～2011 年平均から 7% 増加した。2013 年に資源評価は実施されておらず、資源の現状は 2011 年に WCPFC で示された内容 (南太平洋のビンナガ資源の現状は、過剰漁獲でもなく、乱獲状態にも陥っていない) が踏襲された。しかし、2009～2012 年にかけて当該魚種を対象とした漁業による努力量と漁獲量の増加に対する懸念が表明された。なお、2012 年 8 月の WCPFC 科学委員会第 8 回会合では、大型魚を漁獲対象とするはえ縄漁業による漁獲量や努力量が増加しないよう言及し、経済的に可能であれば、はえ縄漁業の漁獲死亡率を減少させることを勧告された。

- ### 生物学的特性
- 寿命：12 歳以上
 - 成熟開始年齢：6 歳
 - 産卵期・産卵場：10～2 月 (南半球の春・夏季)、中・西部熱帯～亜熱帯海域
 - 索餌場：南緯 30～45 度
 - 食性：魚類、甲殻類、頭足類
 - 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類



太平洋におけるビンナガの分布域と主な漁場
南北のビンナガは赤道で区分される。

利用・用途

缶詰原料など

漁業の特徴

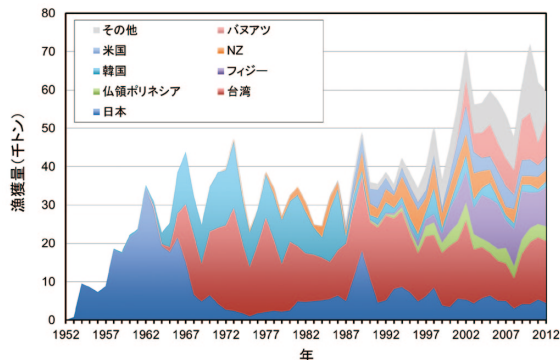
主な漁業は、遠洋漁業国 (日本、中国、台湾、韓国) や島嶼国 (フィジー、サモア、仏領ポリネシア) のはえ縄、ニュージーランド沖・亜熱帯収束域 (南緯 40 度付近) のひき縄 (ニュージーランド、米国) で、竿釣りの漁獲はわずかである。近年は中国以外の遠洋漁業国のはえ縄漁獲が減少し、島嶼国のはえ縄漁獲が増加しつつある。はえ縄以外では、ニュージーランドのひき縄の漁獲が最も多い。遠洋漁業国の大規模流し網は、1983 年頃に始まり 1991 年を最後に消滅した。

漁業資源の動向

1950 年代初めから漁獲が始まり、1960 年代までの漁業国は日本、韓国、台湾であった。年間の総漁獲量は 1960 年から現在まで約 2.2～8.9 万トンの範囲を増減している。2012 年の漁獲量は 8.7 万トンで、過去最大であった 2010 年 (8.9 万トン) に次ぐ漁獲量であった。中国の漁獲量は 2008 年から急増し、国別で 2009 年に最大となり (2.2 万トン)、2012 年は 2.7 万トンで最大となった。

資源状態

2013 年に資源評価は実施されておらず、2012 年に実施された資源評価に基づいた資源の現状が踏襲されている。2012 年 8 月に WCPFC 科学委員会第 8 回会合で報告された資源評価結果によると、MSY は 99,085 トン (2011 年: 85,130 トン)、 B_{MSY} は 84 万トン (同: 61 万トン) と推定され、2009 年、2011 年の結果と比較すると楽観的な結果であった。また、 B_{MSY} に対する現在の資源量の比率 ($B_{2007-2010}/B_{MSY}$) は 1.51 (同: 1.26)、 SSB_{MSY} に対する親魚量の比率 ($SSB_{2007-2010}/SSB_{MSY}$) は 2.58 (同: 2.25)、初期親魚量 SSB_0 に対する SSB_{MSY} の比率 (SSB_{MSY}/SSB_0) は 0.23 (同: 0.26) であった。現在の F ($F_{2007-2010}/F_{MSY}$) は、0.21 (同: 0.26) と低い結果となった。以上の結果から、南太平洋のビンナガ資源の現状は、過剰漁獲でも乱獲状態でもない判断された。



南太平洋ビンナガ国別漁獲量

管理方策

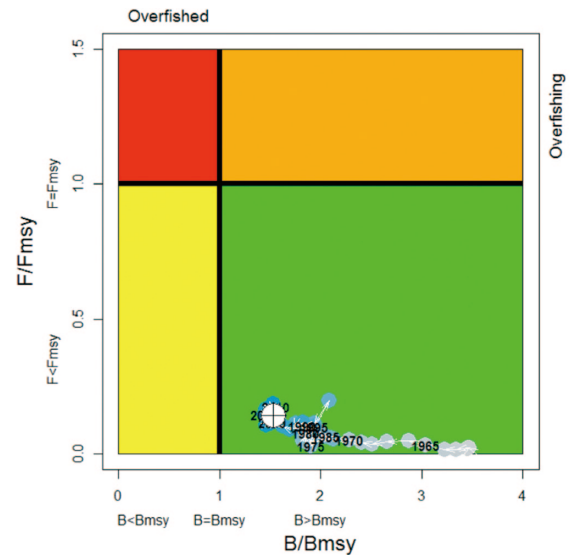
- 2005 年の WCPFC 年次会合では、南緯 20 度以南の太平洋でビンナガを目的として操業する漁船隻数を 2005 年または過去 5 年の平均より増加させないとの措置を採択した。
- 2012 年 8 月の WCPFC 科学委員会第 8 回会合で、大型魚を漁獲対象とするはえ縄漁業の漁獲量や努力量を増加させないと言及し、経済的に可能であれば、はえ縄漁業の漁獲死亡率を減少することを勧告した。

資源評価まとめ

- 2012 年資源評価結果から、南太平洋のビンナガ資源の現状は、過剰漁獲でも乱獲状態でもない判断された。
- 現在の漁獲が資源量の変化に及ぼす影響は、漁業によって異なるが 10～60% の範囲にあり、近年の漁業による南太平洋のビンナガ資源への影響が急激に増加している。
- 現在の資源評価には不確実性が残り、現在の資源量は MSY レベル以上にあると考えられるが、大型魚への F が近年増大している。

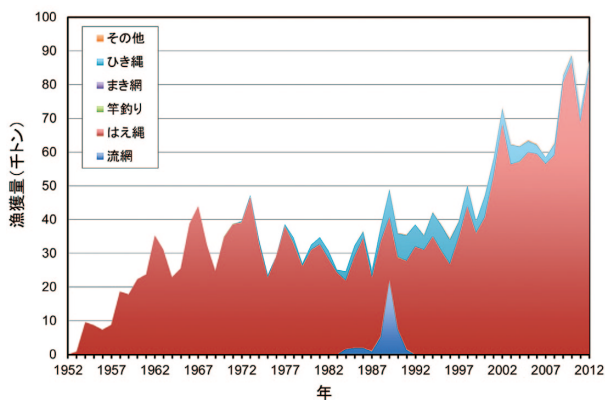
資源管理方策まとめ

- 2005 年の WCPFC 年次会合では、南太平洋ビンナガを目的として操業する漁船隻数を現状（2005 年または過去 5 年の平均）より増加させないとの措置を採択した。

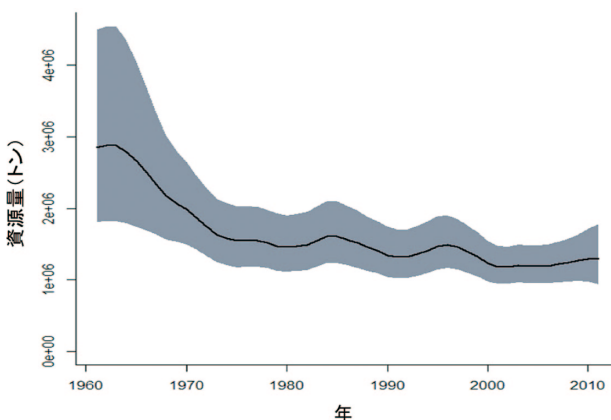


南太平洋ビンナガに関する F/F_{MSY} と B/B_{MSY}

ビンナガ（南太平洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	高位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	6.2～8.9 万トン 平均：7.3 万トン (2008～2012 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	3,000～5,400 トン 平均：4,300 トン (2008～2012 年)



南太平洋ビンナガ漁法別漁獲量



南太平洋ビンナガの総資源量推定値（灰色：95%信頼区間）